

コサメビタキ

Muscicapa latirostris

ヒタキ科・夏鳥

名前の由来

小さなサメビタキの意。背中の色が鮫皮の色に似ているヒタキなのでサメビタキという。ヒタキはヒタキの仲間のジョウビタキの地鳴きが「ヒッヒッ、カッカツ」と火打石をたたく音に似ているので「火焼き(ヒタキ)」になったといわれる。漢字名：小鮫鵜



撮影：叶内拓哉

コサメビタキ

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ
ウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(葦原・樹林) 鳥類
ワシタカ

特定種

該当なし

形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで)13cm。スズメより小さい。頭から背中、尾にかけて灰色で、腹は白い。目の周りが白く、目がクリッとした印象を与える。

声：渡来直後には「ピィピィ、クチュクチュ、ツチツチ、ピチピチピョピョ」などと早口で複雑な声で鳴くが声が小さく、際立つさえずりではない。つがいになると鳴かなくなる静かな鳥。

地鳴き(さえずりではない普段の鳴き方)では「ツィー」「チッチッ」と鳴く。

飛び方：林内で飛んでいる虫に向かって枝からパッと飛び立ち、瞬間的に空中の一点で停止して虫を捕らえ、元の枝に戻る。

類似種と区別点：サメビタキ、エゾビタキ。

サメビタキは少し大きく、腹は白くない。エゾビタキは胸から腹にかけて黒褐色の縦じまがある。

コサメビタキの胸から腹が一番白っぽい。



コサメビタキの巣立ったばかりの幼鳥



コサメビタキの背



類似種のサメビタキ。胸から脇が褐色

生息環境・分布

平地から標高1,000mくらいまでのいろいろな林。明るい林を好む。十勝では夏鳥。

分布：ヒマラヤ、シベリア南部から中国東北部、朝鮮半島などで繁殖し、冬にはインドから中国南部、ボルネオ島などに渡る。

日本には夏鳥として渡来し、全国各地で繁殖する。北海道(十勝地方も)には夏鳥。5月中旬に渡来して繁殖する。平地や低山の林に生息する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期						繁殖						
中国南部など(越冬期)	繁殖										繁殖	

食性・他生物との関わり

空中を飛ぶチョウ、ガ、ウンカ、アブなどの昆虫。まれに木についた青虫も食べるという。

木の枝にじっととまり、林内で飛んでいる虫を見つけるとそれに向かってパッと飛び立ち、瞬間的に空中の一点で停止してすばやく虫を捕らえ、元の枝に戻る（フライングキ

ャッチ法）。(→興味深い話の項参照)

捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は5～7月、一夫一妻で繁殖する。つがいごとになわばりを作る。

高木の葉がない水平な木の枝に、樹皮などでお椀形（または皿形）の巣を作り、コケで周りを覆う。多量のコケ類、樹皮、鳥の羽毛、クモの糸を用い、産座には哺乳類の毛や鳥の羽毛などを敷くという。一見木のこぶのような巣で、オスメス共同で作る。

4～5個産卵し、ほとんどメスのみが卵を抱く。オスはメスに給餌することがあるという。(→興味深い話の項参照) 12～14日でヒナがかえり、12～14日くらいオスメス共同でヒナを育てる。メスがヒナを抱いている間はオスがメスに餌を渡し、それをメスがヒナに給餌するのだという。



コサメビタキと巣。抱卵や抱雛はメスが行うという

興味深い話

■サメビタキの仲間（コサメビタキ・サメビタキ・エゾビタキ）の中では一番小さい。

■さえずる声は小さく、期間も短い静かな鳥。時々他の鳥の鳴き真似を、これも小声ですることがあるという。

■オスのメスに対する求愛ディスプレイ（誇示のための行動・動作）では胸の羽毛をふくらませ、尾羽を開いて左右に揺するのだという。

■空中で虫を捕らえる際「パチッ」というくちばしで虫をはさむ音がする。

■林内の空き地を好み、大木の下枝をとまり場所にすることが多いという。虫を捕らえる際、とまり場所よりさらに下の方へ飛び立つことが多いという。

■なわばりの広さは直径100mくらいだという。

■オスメスまたは単独で行動することが多く、渡りの時で

も群れることはまれにしかないという。

■オスが、卵を抱いているメスに対して給餌をする際、飛びながら空中停止して与えるのだという。

■別名「ばかつちょ」（埼玉県）、「ばかめ」（長野県）などとも言われるらしい。意味は不明。

■地味だが目がクリッとしたかわいい小鳥。目の周りが白い上に、黒目周囲の肉質リングが黒いため、目を際立たせている。

配慮事項

平地から山地までの、あまり鬱閉していない明るい林が大事である。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)

「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995

「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000

「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993

「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997

「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987

「鳥のおもしろ私生活」ビッキオ 編著、主婦と生活社 1997

「続野鳥の生活」羽田健三 監修、築地書館 1976

「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. I～III」清棲幸保、講談社 1978

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葎原・樹林)
鳥類
ツシタカ